



## 2023年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年5月1日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <https://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 2023年5月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年9月期第2四半期の業績(2022年10月1日～2023年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,378	6.0	23		22		35	
2022年9月期第2四半期	1,467	4.6	6	87.8	6	87.6	10	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	2.50	
2022年9月期第2四半期	0.72	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期第2四半期	1,461	1,097	75.1	77.50
2022年9月期	1,352	1,061	78.5	75.00

(参考)自己資本 2023年9月期第2四半期 1,097百万円 2022年9月期 1,061百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期		0.00		0.00	0.00
2023年9月期		0.00			
2023年9月期(予想)					

2023年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

### 3. 2023年9月期の業績予想(2022年10月1日～2023年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を以て、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期2Q	14,436,600 株	2022年9月期	14,436,600 株
期末自己株式数	2023年9月期2Q	278,800 株	2022年9月期	278,800 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期2Q	14,157,800 株	2022年9月期2Q	14,157,800 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社は、消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「よりいいものをより安く」提供し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当第2四半期累計期間において、商品につきましては、買いやすい価格帯に設定した新商品開発や既存商品の規格見直しを強化し、顧客数の確保と売上高の拡大に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の売上高は1,378,752千円（前年同四半期比6.0%減）、営業損失は23,222千円（前年同四半期は営業利益6,235千円）、経常損失は22,024千円（前年同四半期は経常利益6,331千円）、水海道工場を売却したことによる固定資産売却益82,449千円を特別利益として計上したことにより、四半期純利益は35,372千円（前年同四半期は四半期純損失10,166千円）となりました。

なお、水海道工場売却に伴い、資産のグルーピングを見直した結果、小山工場賃貸収入・費用を営業外収益・費用として計上することといたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

（小売事業）

当セグメントにおきましては、「三代目茂蔵」ブランドを「工場直売所」から「豆腐専門店」へと、転換を推し進めております。

当第2四半期累計期間におきましては、引き続き開店から12時までの時間帯に「朝市」を開催し、顧客の来店頻度向上を図りつつ更なる顧客数確保のため店頭商品の大幅な見直しを行ってまいりました。

出店につきましては条件や店舗形態等の見直しを行い、出店準備を継続して進めております。

これらより1店舗平均の顧客単価は前年同四半期比98.0%、1店舗平均の顧客数につきましては、顧客の来店頻度向上を目的とした「朝市」の開催、店頭商品の大幅な見直し等により全時間帯で増加し、同116.9%となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は店舗数減少の影響等もあり1,200,488千円（前年同四半期比7.8%減）となりましたが、1店舗平均の売上高は前年同四半期比114.6%となりました。セグメント利益（営業利益）につきましては、仕入価格の上昇による売上総利益率の低下や人件費の上昇等により33,844千円（前年同四半期比46.5%減）となりました。

（その他事業）

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は178,264千円（前年同四半期比7.9%増）、セグメント利益（営業利益）は16,065千円（前年同四半期比9.9%減）となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

（単位：店）

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」（直営店）	35	—	2	33
その他事業	「三代目茂蔵」（加盟店）	281	97	11	367
合計		316	97	13	400

（2）財政状態に関する説明

① 財政状態

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して109,134千円増加し1,461,776千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加102,984千円、水海道工場を売却したことによる長期未収入金の増加329,070千円、一方で水海道工場売却及び減価償却等による有形固定資産の減少385,981千円等によるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して73,762千円増加し364,550千円となりました。主な要因は、買掛金の増加52,010千円、未払金の増加20,409千円及び未払法人税等の増加8,053千円等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して35,372千円増加し1,097,226千円となりました。これは四半期純利益35,372千円の計上により利益剰余金が35,372千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して102,984千円増加し568,895千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、50,768千円（前年同四半期は57,664千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税引前四半期純利益50,031千円、仕入債務の増加額52,010千円、減少要因として固定資産売却益82,449千円及び法人税等の支払額6,132千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、58,875千円（前年同四半期は3,637千円の収入）となりました。これは、有形固定資産の売却による収入48,622千円、敷金及び保証金の回収による収入10,843千円及び無形固定資産の取得による支出1,280千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、6,654千円（前年同四半期は10,002千円の支出）となりました。これは長期借入による収入30,000千円及び長期借入金の返済による支出36,654千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。

なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	465,911	568,895
売掛金及び契約資産	61,997	61,819
商品及び製品	35,155	31,063
原材料及び貯蔵品	2,914	3,373
その他	44,110	119,479
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	610,058	784,601
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	42,858	32,479
構築物（純額）	3,829	3,557
工具、器具及び備品（純額）	8,137	6,221
土地	562,970	189,970
その他（純額）	2,491	2,076
有形固定資産合計	620,287	234,306
無形固定資産	4,355	4,850
投資その他の資産		
敷金及び保証金	117,317	108,714
長期未収入金	0	329,070
その他	820	429
貸倒引当金	△197	△197
投資その他の資産合計	117,941	438,017
固定資産合計	742,584	677,174
資産合計	1,352,642	1,461,776
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	155,173	207,184
1年内返済予定の長期借入金	20,004	22,500
未払金	44,242	64,652
未払費用	36,171	36,405
未払法人税等	14,218	22,271
その他	1,928	1,836
流動負債合計	271,738	354,850
固定負債		
長期借入金	16,650	7,500
その他	2,400	2,200
固定負債合計	19,050	9,700
負債合計	290,788	364,550
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	△17,697	17,675
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,061,853	1,097,226
純資産合計	1,061,853	1,097,226
負債純資産合計	1,352,642	1,461,776

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,467,458	1,378,752
売上原価	977,588	995,194
売上総利益	489,869	383,557
販売費及び一般管理費	483,633	406,779
営業利益又は営業損失(△)	6,235	△23,222
営業外収益		
受取利息	7	1,293
受取賃貸料	—	3,570
受取保険金	200	—
その他	71	15
営業外収益合計	278	4,878
営業外費用		
支払利息	181	112
賃貸費用	—	3,559
その他	1	10
営業外費用合計	182	3,681
経常利益又は経常損失(△)	6,331	△22,024
特別利益		
固定資産売却益	—	82,449
特別利益合計	—	82,449
特別損失		
減損損失	2,963	3,307
固定資産除却損	0	0
店舗閉鎖損失	4,844	7,085
特別損失合計	7,808	10,392
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△1,477	50,031
法人税、住民税及び事業税	8,688	14,659
法人税等合計	8,688	14,659
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△10,166	35,372

（3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自 2021年10月1日 至 2022年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自 2022年10月1日 至 2023年3月31日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 （△）	△1,477	50,031
減価償却費及びその他の償却費	11,614	8,157
減損損失	2,963	3,307
受取利息及び受取配当金	△7	△1,293
支払利息	181	112
為替差損益（△は益）	△4	5
固定資産売却益	—	△82,449
固定資産除却損	0	0
店舗閉鎖損失	4,844	7,085
売上債権の増減額（△は増加）	△7,072	177
棚卸資産の増減額（△は増加）	△4,620	3,632
仕入債務の増減額（△は減少）	50,219	52,010
未払金の増減額（△は減少）	4,564	5,108
未払消費税等の増減額（△は減少）	1,189	16,751
その他	6,256	△6,921
小計	68,652	55,716
利息及び配当金の受取額	7	1,293
利息の支払額	△177	△109
法人税等の支払額	△10,817	△6,132
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,664	50,768
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△234	△461
有形固定資産の売却による収入	—	48,622
無形固定資産の取得による支出	—	△1,280
敷金及び保証金の回収による収入	1,580	10,843
リース債権の回収による収入	2,292	1,151
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,637	58,875
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	30,000
長期借入金の返済による支出	△10,002	△36,654
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,002	△6,654
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△5
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	51,304	102,984
現金及び現金同等物の期首残高	548,948	465,911
現金及び現金同等物の四半期末残高	600,253	568,895



（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間（自 2021年10月1日 至 2022年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,302,286	165,171	1,467,458	—	1,467,458
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,302,286	165,171	1,467,458	—	1,467,458
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,302,286	165,171	1,467,458	—	1,467,458
セグメント損益	63,298	17,826	81,124	△74,888	6,235

（注） 1. セグメント損益の調整額△74,888千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、2,963千円の減損損失を計上しております。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,200,488	178,264	1,378,752	—	1,378,752
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,200,488	178,264	1,378,752	—	1,378,752
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,200,488	178,264	1,378,752	—	1,378,752
セグメント損益	33,844	16,065	49,909	△73,131	△23,222

（注） 1. セグメント損益の調整額△73,131千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、3,307千円の減損損失を計上しております。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。